

令和3年度使用
中学校用教科用図書
採択参考資料

英 語

発行者の番号・略称	教科書の記号・番号
2 東書	英語 701・801・901
9 開隆堂	英語 702・802・902
15 三省堂	英語 703・803・903
17 教出	英語 704・804・904
38 光村	英語 705・805・905
61 啓林館	英語 706・806・906

英 語

I 教科用図書の調査研究に当たって

1 調査対象教科用図書

2 東書 9 開隆堂 15 三省堂 17 教出 38 光村 61 啓林館

2 調査研究の観点

- (1) 外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動を通して、コミュニケーションを図る基礎となる資質・能力を育成することができる内容であるか。
- (2) 内容の程度や学年間の関連が心身の発達に応じて配慮され、生徒の生活や経験及び興味や関心に応じた内容であるか。
- (3) 「聞くこと」「読むこと」「話すこと」「書くこと」の4技能の構成・配列が適切であり、自主的な学習が進められるよう配慮されているか。
- (4) 文字や記号等の表記が適切であり、資料が学習内容の理解に役立ち、学習意欲を喚起するよう配慮されているか。

3 調査研究に対する基本的な考え方

- (1) 偏りのない公正な立場で調査研究を行っている。
- (2) 調査研究の資料を通して、教科用図書の特徴が明らかになるよう配慮している。
- (3) 記述に当たっては、教科用図書の内容を具体的に取り上げるようにし、調査員の主観に陥らないようにしている。
- (4) 採択の関係者が、見やすく分かりやすいよう配慮している。

II 採択参考資料の見方について

1 各教科用図書の発行者の記載順序は、発行者の番号順としている。

2 各教科用図書の調査票は、記載順序に従って配列してある。

3 調査票の調査研究項目は、調査研究の観点についてまとめている。

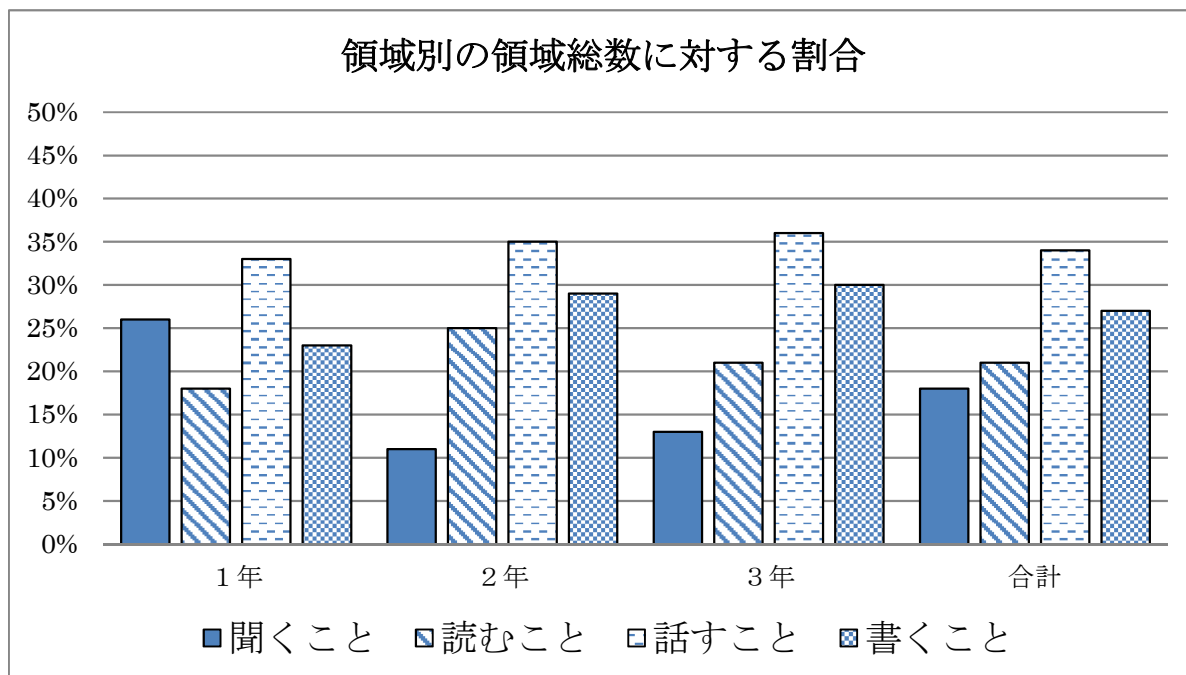
- (1) 概括的な調査研究…………… 観点 (1) (4)
 - ① 領域別の構成
 - ② 言語の使用場面、働き等に関するページ数の構成
- (2) 基礎的・基本的な知識及び技能の習得に関すること…………… 観点(1)
- (3) 思考力、判断力、表現力等の育成に関すること…………… 観点(1) (2) (3)
- (4) 生徒の実態や、教科等横断的な内容に関すること…………… 観点 (2) (3)
- (5) 全体的な表記・表現の工夫に関すること…………… 観点 (1) (2) (4)

1 概括的な調査研究

(1) 領域別の構成

	領域別の領域総数に対する割合				領域 総数	頁数	資料・付録
	聞くこと	読むこと	話すこと	書くこと			内容
1年 (A4判)	26%	18%	33% やり取り 21% 発表 12%	23%	218	41	Optional Reading / Word List / あて 名の書き方 / フォントの種類 / Word Room / CAN-DO リスト他
2年 (A4判)	11%	25%	35% やり取り 17% 発表 18%	29%	210	33	Optional Reading / Word List / 形容 詞・副詞比較変化表 / 不規則動詞変化 表 / Word Room / CAN-DO リスト他
3年 (A4判)	13%	21%	36% やり取り 16% 発表 20%	30%	179	41	Optional Reading / Word List / 形容 詞・副詞比較変化表 / 不規則動詞変化 表 / Word Room / CAN-DO リスト他
合計	18%	21%	34% やり取り 18% 発表 16%	27%	607	115	

※領域総数とは、教科書内に示された領域別「記号」(アイコン)数の総数である。



(2) 言語の使用場面、働き等に関するページ数の構成

	「言語の使用場面」 の種類の数	「言語の働き」 の種類の数	伝統文化や自然科学 を題材に取り上げ ているページ数	文字や音声、文法 について独立して 取り上げている ページ数
1年	8	24	16	14
2年	8	23	24	12
3年	4	15	16	11
全 体	20	62	56	37

2 基礎的・基本的な知識及び技能の習得に関すること

- 全ての学年において、新出語句「New Words」とともに「小学校の単語」が掲載されている。
- 全ての学年において、登場人物や場面が本文と対応し、新出文法を扱う「Key Sentence」「Practice」が設定されている。
- 全ての学年において、単元の中に、これまでに学んだ知識及び技能を言語活動の中で活用する「Mini Activity」が設定されている。
- 全ての学年において、「Grammar for Communication」では、文法項目がまとめて掲載されている。

3 思考力、判断力、表現力等の育成に関すること

- 全ての学年において、「Preview」では、映像で実際に新出文法や表現が使用される目的や場面、状況が示されている。
- 第2、3学年の「Read and Think」では、読み取る内容を記載し、「Round 1～3 Get the Gist / Focus on the Details / Think and Express Yourself」という問いが設定されている。
- 全ての学年において、各単元の終わりに、学習した内容を使って、聞いたり、読んだり、話したり、書いたりする言語活動「Unit Activity」が設定されている。
- 全ての学年において、これまで複数の単元を通して学んできたことを統合する「Stage Activity」が設定されている。
- 全ての学年において、単元の始めに「Goal」や「Point of View」が示されており、単元の終わりには、達成できたかを振り返る「CHECK」が設定されている。
- 全ての学年において、コミュニケーションの目的や場面、状況に応じて、各技能（領域）を活用する「Let's シリーズ」が設定されている。

4 生徒の実態や、教科等横断的な内容に関すること

- 全ての学年において、自主的な学習がすすめられるように「学び方コーナー」が設定されている。
- 第1学年では国語、第2学年では技術家庭、第3学年では理科、社会（公民）の学習内容と関連のあるコーナー「Learning～in English」が設定されている。

5 全体的な表記・表現の工夫に関すること

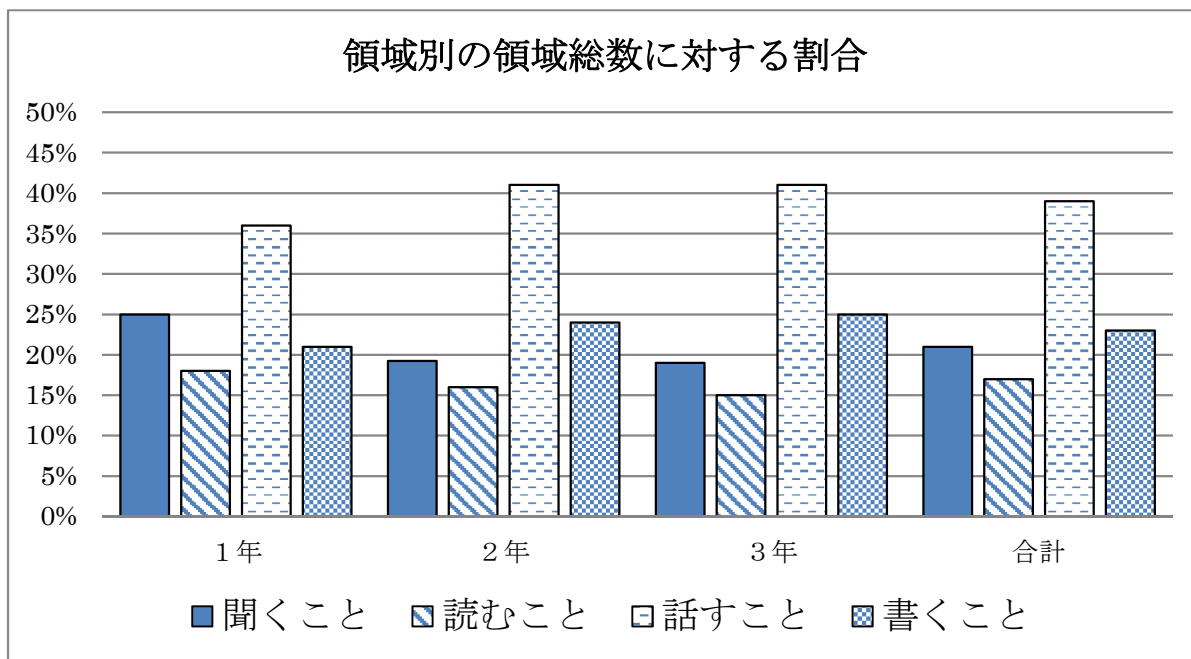
- 巻末には、「小学校の単語」と教科書内で学習した語が「Word List」として掲載されている。
- 各単元で聞くこと、読むこと、話すこと [やり取り]、話すこと [発表]、書くことに関わる活動の「記号」が示されている。
- 巻頭の「見通しを立てよう」で活動目標が示されており、巻末に「CAN-DO リスト」が掲載されている。
- 「Let's Listen」では、聞き取る際のポイントが「Sounds Box」に記載されている。
- 各単元の題材に関する「Column コラム」が掲載されている。
- 単元に関して、即興で対話をする「Plus One」が掲載されている。
- 言語活動で、自分の考えや気持ち等を表現するための「Tool Box」が掲載されている。
- 自主的な学習ができるように、音声等につながるQRコードが掲載されている。
- 書体や色使いやレイアウト等に、ユニバーサルデザインの視点が入り入れられている。
- 学習の流れが一定になるように、活動や学習要素が紙面上の定位置に設定されている。

1 概括的な調査研究

(1) 領域別の構成

	領域別の領域総数に対する割合				領域 総数	頁数	資料・付録
	聞くこと	読むこと	話すこと	書くこと			内容
1年 (AB判)	25%	18%	36% やり取り 27% 発表 9%	21%	129	29	単語と熟語 / 不規則動詞活用表 / 英語で「できるようになったこと」リスト / 英語の歌 / アクションカード他
2年 (AB判)	19%	16%	41% やり取り 29% 発表 12%	24%	104	35	単語と熟語 / 不規則動詞活用表 / 英語で「できるようになったこと」リスト / アクションカード他
3年 (AB判)	19%	15%	41% やり取り 29% 発表 12%	25%	105	33	単語と熟語 / 不規則動詞活用表 / 英語で「できるようになったこと」リスト / アクションカード他
合計	21%	17%	39% やり取り 28% 発表 11%	23%	338	97	

※領域総数とは、教科書内に示された領域別「記号」(アイコン)数の総数である。



(2) 言語の使用場面、働き等に関するページ数の構成

	「言語の使用場面」 の種類の数	「言語の働き」 の種類の数	伝統文化や自然科学 を題材に取り上げ ているページ数	文字や音声、文法 について独立して 取り上げている ページ数
1年	7	19	15	14
2年	7	23	27	14
3年	8	24	18	11
全 体	22	66	60	39

2 基礎的・基本的な知識及び技能の習得に関すること

- 全ての学年において、新出語句が「New Words」として示されており、第1学年の巻末資料に「小学校で学んだ単語」が掲載されている。
- 全ての学年において、新出文法を活用する場面「Scenes」から単元が始まっている。
- 全ての学年において、「Listen」「Speak & Write」の表現の参考となる「Word Box」が囲みで掲載されている。
- 全ての学年において、単元の最後に「英語のしくみ」として文法項目がまとめて掲載されている。

3 思考力、判断力、表現力等の育成に関すること

- 全ての学年において、「Think」では、本文に関する「Q&A」と「Share」の2つの異なる形式の問いが設定されている。
- 全ての学年において、学んだことを自分の言葉で再現する「Retell」と、目的や場面、状況に応じた表現活動をする「Interact」が設定されている。
- 第2、3学年の「Reading」では、「1st～3rd Stage」の3段階の問いが設定されており、「2nd Stage」には、「Check」「Guess」「Share」の3種類の問いが掲載されている。
- 全ての学年において、「Steps」では、コミュニケーションで活用する技能が取り上げられ、これまでに学んだことを統合する「Our Project」につながるよう設定されている。
- 全ての学年において、各単元の「とびら」で「Goal」が示されており、「Scenes」「Think」「Interact」のページで、達成できたかをチェックする欄が設定されている。
- 全ての学年において、コミュニケーションの目的や場面、状況に応じて、各技能（領域）を活用する「Power-Up」が設定されている。

4 生徒の実態や、教科等横断的な内容に関すること

- 全ての学年において、「環境、平和、人権、共生などの現代的課題」について考える学習内容が設定されている。
- 第1学年の安全教育、第2学年の職場体験等、学校における教育活動と関連のある単元が設定されている。

5 全体的な表記・表現の工夫に関すること

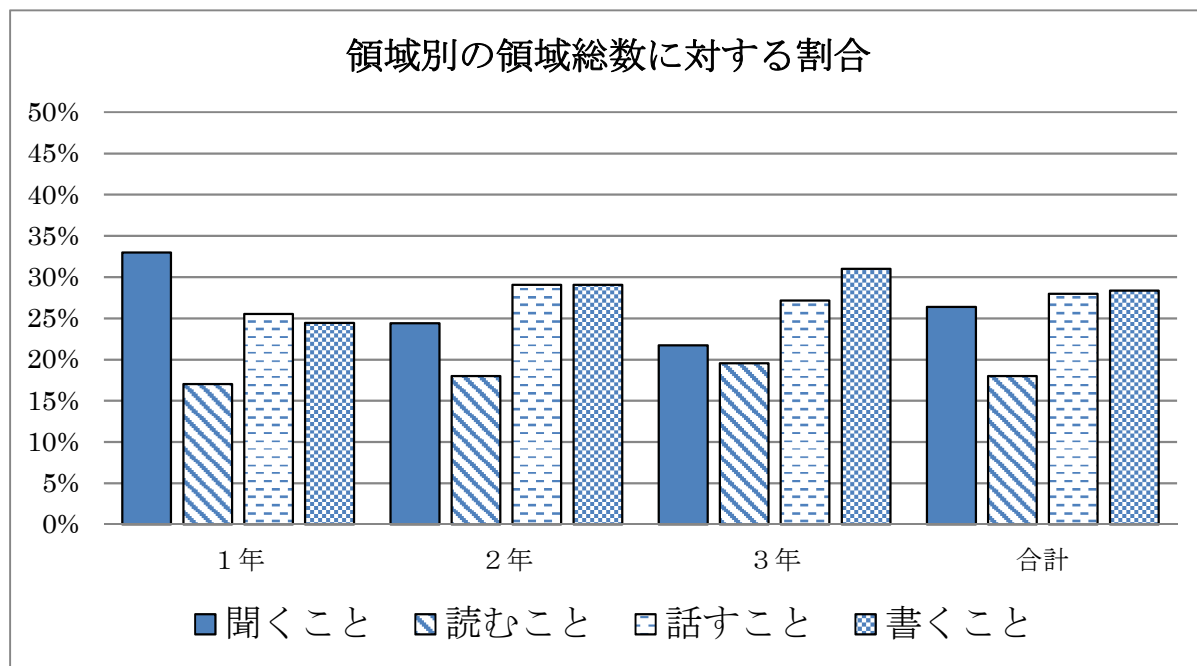
- 巻末には、小学校で学習した語と、教科書内で学習した語が「単語と熟語」として掲載されている。
- 各単元で聞くこと、読むこと、話すこと [やり取り]、話すこと [発表]、書くことに関わる活動の「記号」が示されている。
- 巻頭の「この教科書で学ぶみなさんへ」で構成が示されており、巻末に「英語で『できるようになったこと』リスト」が掲載されている。
- 「Scenes」では、「2コマのマンガ形式」でイラストが掲載されている。
- 音読した回数をチェックする欄が「Think」のページに設定されている。
- 「Think」では、題材に関する「Column」が掲載されている。
- 全ての学年において、切り取り式の「アクションカード」が巻末に収録されている。
- 自主的な学習ができるように、音声等につながるQRコードが掲載されている。
- 書体や色使いやレイアウト等に、ユニバーサルデザインの視点が取り入れられている。
- 学習の流れが一定になるように、活動や学習要素が紙面上の定位置に設定されている。

1 概括的な調査研究

(1) 領域別の構成

	領域別の領域総数に対する割合				領域 総数	資料・付録	
	聞くこと	読むこと	話すこと	書くこと		頁数	内容
1年 (A B判)	33%	17%	26% やり取り 16% 発表 10%	24%	94	36	Songs / Further Reading / Sounds / 基本文のまとめ / ローマ字 / 筆記体 / いろいろな単語 / 英語の手紙他
2年 (A B判)	24%	18%	29% やり取り 15% 発表 14%	29%	86	50	Songs / Further Listening / Further Reading / Sounds / 基本文のまとめ / いろいろな単語 / 不規則動詞活用表他
3年 (A B判)	22%	20%	27% やり取り 13% 発表 14%	31%	92	54	Songs / Words to remember / Further Reading / 基本文のまとめ / いろいろな単語 / 不規則動詞活用表他
合計	26%	18%	28% やり取り 15% 発表 13%	28%	272	140	

※領域総数とは、教科書内に示された領域別「記号」(アイコン)数の総数である。



(2) 言語の使用場面、働き等に関するページ数の構成

	「言語の使用場面」 の種類の数	「言語の働き」 の種類の数	伝統文化や自然科学 を題材に取り上げ ているページ数	文字や音声、文法 について独立して 取り上げている ページ数
1年	9	16	9	18
2年	7	19	40	15
3年	7	19	4	11
全 体	23	54	53	44

2 基礎的・基本的な知識及び技能の習得に関すること

- 全ての学年において、新出語句が「Words」として示されており、第1、2学年では小学校で扱った語句が掲載されている。
- 全ての学年において、単元の「GET」の部分で、「POINT」として新出文法が扱われていて、「Drill」が設定されている。
- 全ての学年において、「Listen」「Talk/Speak & write」で表現の参考となる「Word Bank」が囲みで掲載されている。
- 全ての学年において、単元の最後に「文法のまとめ」として文法項目がまとめて掲載されている。

3 思考力、判断力、表現力等の育成に関すること

- 全ての学年において、「GET」で学習したことを目的や場面、状況で活用する「USE Write」「USE Speak」が設定されている。
- 全ての学年において、「USE Read」では、「Stage1」「Stage2」「Stage3」の3段階の問いが設定されている。
- 全ての学年において、英語を読んで得た情報を活用し、質問に答える「Reading for Information」が設定されている。
- 全ての学年において、これまで複数の単元を通して学んできたことを統合する「Project」が設定されている。
- 全ての学年において、各単元の「とびら」に、それぞれの「POINT」にある英文と「USE」で行う言語活動が示されており、単元最後の言語活動が関連して設定されている。
- 全ての学年において、コミュニケーションの目的や場面、状況に応じて各技能（領域）を活用する「Get Plus」や「Take Action!」が設定されている。

4 生徒の実態や、教科等横断的な内容に関すること

- 全ての学年において、自主的な学習がすすめられるように「For Self-study」が付録で設定されている。
- 第2学年において職場体験、林間学校、第3学年において修学旅行等、学校における教育活動と関連のある単元が設定されている。

5 全体的な表記・表現の工夫に関すること

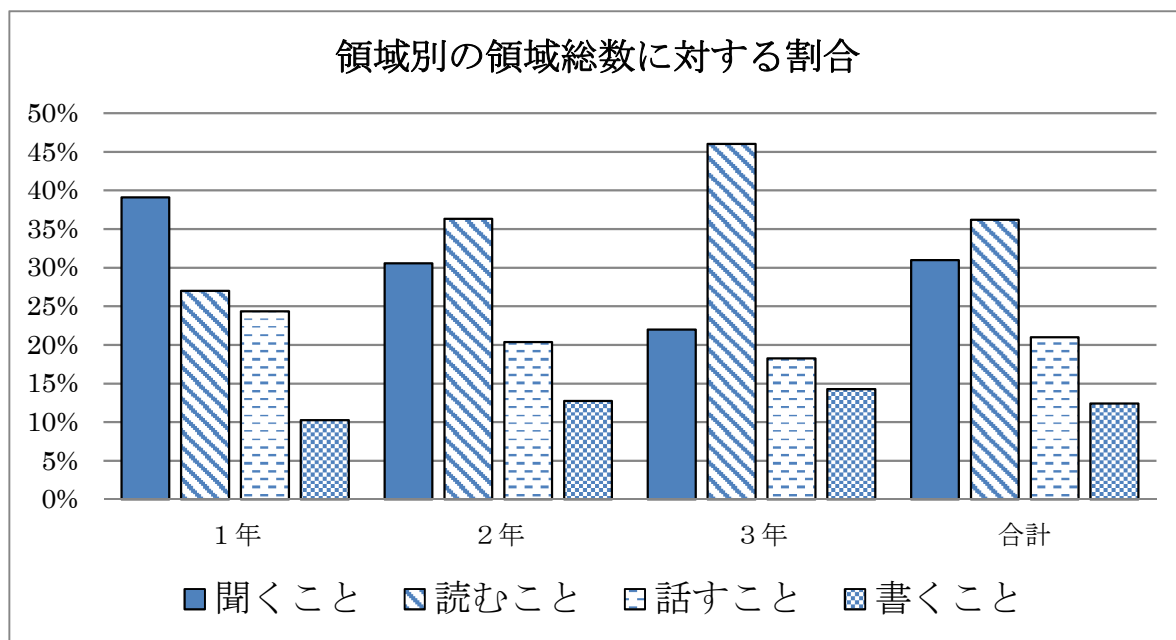
- 巻末には、項目ごとに分けた「いろいろな単語」と、教科書内で学習した語が「単語の意味」として掲載されている。
- 各単元で聞くこと、読むこと、話すこと [やり取り]、話すこと [発表]、書くことに関わる活動の「記号」が示されている。
- 巻頭の「この教科書のしくみ」で構成が示されており、巻末に「What Can I Do?」リストが掲載されている。
- 聞き取りや発音のポイントを示した「Sounds」が掲載されている。
- 話したり書いたりする活動には「in English」の記号が掲載されている。
- 表現活動を行う際に使う語句が「Idea Box」「Expressions」に掲載されている。
- 話し方や、読み方のポイントを示した「Tips for～」が掲載されている。
- 自主的な学習ができるように、音声等につながるQRコードが掲載されている。
- 書体や色使いやレイアウト等に、ユニバーサルデザインの視点が取り入れられている。
- 学習の流れが一定になるように、活動や学習要素が紙面上の定位置に設定されている。

1 概括的な調査研究

(1) 領域別の構成

	領域別の領域総数に対する割合				領域 総数	資料・付録	
	聞くこと	読むこと	話すこと	書くこと		頁数	内容
1年 (A B判)	39%	27%	24% やり取り 12% 発表 12%	10%	156	33	Word List / 不規則動詞変化表 / Can-Do 自己チェックリスト / 重要構 文復習リスト / ネームカード他
2年 (A B判)	31%	36%	20% やり取り 8% 発表 12%	13%	157	39	Word List / 不規則動詞変化表 / Can-Do 自己チェックリスト / 重要構 文復習リスト / 筆記体他
3年 (A B判)	22%	46%	18% やり取り 6% 発表 12%	14%	126	33	Word List / 語形変化のまとめ / 不規 則動詞変化表 / Can-Do 自己チェック リスト / 重要構文復習リスト他
合計	31%	36%	21% やり取り 9% 発表 12%	12%	439	105	

※領域総数とは、教科書内に示された領域別「記号」(アイコン)数の総数である。



(2) 言語の使用場面、働き等に関するページ数の構成

	「言語の使用場面」 の種類の数	「言語の働き」 の種類の数	伝統文化や自然科学 を題材に取り上げ ているページ数	文字や音声、文法 について独立して 取り上げている ページ数
1年	9	19	18	12
2年	8	17	27	10
3年	7	19	12	5
全 体	24	55	57	27

2 基礎的・基本的な知識及び技能の習得に関すること

- 全ての学年において、新出語句が「Words & Phrases. . . .」として示されており、小学校で学習した単語は、「Word List①」として第1学年の巻末資料に掲載されている。
- 全ての学年において、単元の「Part」の「Key Sentences」が新出文法として扱われていて、「Tool Kit」と「Listen」が設定されている。
- 全ての学年において、単元の「Part」で扱った文法項目を用いて表現活動をする「Think & Try!」が取り入れられている。
- 全ての学年において、単元の最後に「Grammar」として、文法項目がまとめて掲載されている。

3 思考力、判断力、表現力等の育成に関すること

- 全ての学年において、単元の「Part」に「Goal」と場面設定が示されており、「Think & Try!」で表現するように設定されている。
- 全ての学年において、「Review」では、本文を要約する文の穴埋め問題が設定されている。
- 全ての学年において、単元で、英文を聞いて得た情報をもとに書いたり話したりする「Task」が設定されている。
- 全ての学年において、これまで複数の単元を通して学んできたことを統合する「Project」が設定されている。
- 全ての学年において、単元の終わりには、「Lessonをふりかえろう」が設定されている。
- 全ての学年において、コミュニケーションの目的や場面、状況に応じて各技能（領域）を活用する「Tips」や「Useful Expression」が設定されている。

4 生徒の実態や、教科等横断的な内容に関すること

- 全ての学年において、自主的な学習がすすめられるように「How to Study」が設定されている。
- 第2学年での福祉教育、第2、3学年でのキャリア教育等、学校における教育活動と関連のある単元が設定されている。

5 全体的な表記・表現の工夫に関すること

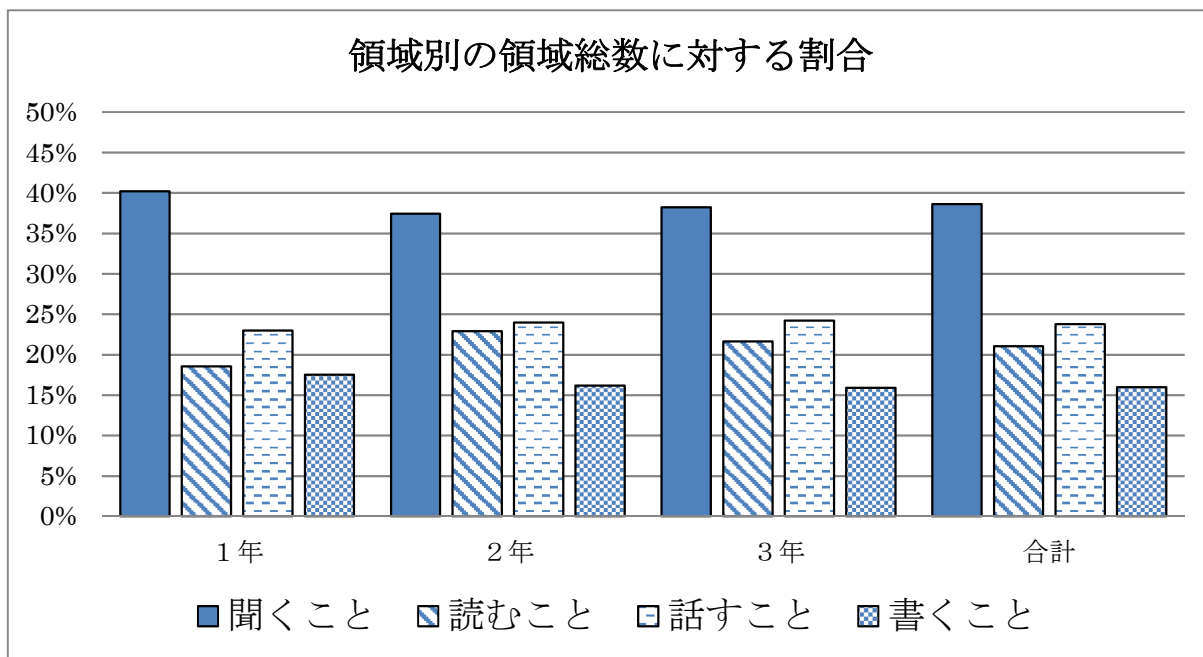
- 巻末には、小学校と教科書内で学習した語が「Word List」として掲載されている。
- 各単元で聞くこと、読むこと、話すこと [やり取り]、話すこと [発表]、書くことに関わる活動の「記号」が示されている。
- 巻頭の「この教科書で英語を学ぶみなさんへ」で構成が示されており、巻末に「Can-Do 自己チェックリスト」が掲載されている。
- 単元の「Part」では、テーマ別の発音ポイントが記載されている。
- 単元の「Part」には音読した回数をチェックする「Read Aloud」が設定されている。
- 表現活動を行う際に使う語句が「And More Words」に掲載されている。
- 第1学年では「ネームカード」、第2、3学年では「活動用カード」がそれぞれ切り取り式で巻末に収録されている。
- 自主的な学習ができるように、音声等につながるQRコードが掲載されている。
- 書体や色使いやレイアウト等に、ユニバーサルデザインの視点が取り入れられている。
- 学習の流れが一定になるように、活動や学習要素が紙面上の定位置に設定されている。

1 概括的な調査研究

(1) 領域別の構成

	領域別の領域総数に対する割合				領域 総数	頁数	資料・付録
	聞くこと	読むこと	話すこと	書くこと			内容
1年 (A B判)	40%	19%	23% やり取り 19% 発表 4%	18%	194	25	Word List / 英語の文字・分の書き方 / ローマ字表 / CAN-DO List / 基本文の まとめ / 英語のしくみ他
2年 (A B判)	37%	23%	24% やり取り 19% 発表 5%	16%	179	32	Word List / 不規則動詞活用表 / 形容 詞・副詞の変化表 / CAN-DO List / 基 本文のまとめ / 英語のしくみ他
3年 (A B判)	38%	22%	24% やり取り 18% 発表 6%	16%	157	45	Word List / 不規則動詞活用表 / 形容 詞・副詞の変化表 / CAN-DO List / 基 本文のまとめ / 英語のしくみ他
合計	39%	21%	24% やり取り 19% 発表 5%	16%	530	102	

※領域総数とは、教科書内に示された領域別「記号」(アイコン) 数の総数である



(2) 言語の使用場面、働き等に関するページ数の構成

	「言語の使用場面」 の種類の数	「言語の働き」 の種類の数	伝統文化や自然科学 を題材に取り上げ ているページ数	文字や音声、文法 について独立して 取り上げている ページ数
1年	7	15	21	10
2年	8	15	0	13
3年	4	17	13	8
全 体	19	47	34	31

2 基礎的・基本的な知識及び技能の習得に関すること

- 全ての学年において、新出語句が「New Words」として示されており、巻末付録の「Word List」では、小学校で習った語にマークが付けられている。
- 全ての学年において、単元の「Part」で「基本文」として新出文法が扱われている。
- 全ての学年において、単元の「Part」で「Listen」「Speak」「Write」の活動が設定されており、表現の参考となる「Word Board」が囲みで掲載されている。
- 全ての学年において、文法項目のまとめである「Active Grammar」で、単元の文法事項を振り返る「Grammar Hunt」が設定されている。

3 思考力、判断力、表現力等の育成に関すること

- 全ての学年において、「扉」には話の内容を予測する「Check」、話の概要をつかむ「Listen」「Watch」が設定されている。
- 全ての学年において、「Let's Read」では、「Before You Read」、本文の内容に関する問い、「After You Read」の3段階の問いが設定されている。
- 全ての学年において、「帯教材」として、各単元で学んだことを自分の言葉で再現する「Story Retelling」が掲載されている。
- 全ての学年において、これまで複数の単元を通して学んできたことを統合する「You Can Do It!」が設定されている。
- 全ての学年において、「扉」には各単元の目標「Goal」が示されており、単元最後の言語活動が関連して設定されている。
- 全ての学年において、コミュニケーションの目的や場面、状況に応じて、各技能（領域）を活用する「Daily Life」が設定されている。

4 生徒の実態や、教科等横断的な内容に関すること

- 全ての学年において、自主的な学習がすすめられるように「英語の学び方ガイド」や「Your Coach」が設定されている。
- 第2学年において防災教育、職場体験、第3学年において修学旅行等、学校における教育活動と関連のある単元が設定されている。

5 全体的な表記・表現の工夫に関すること

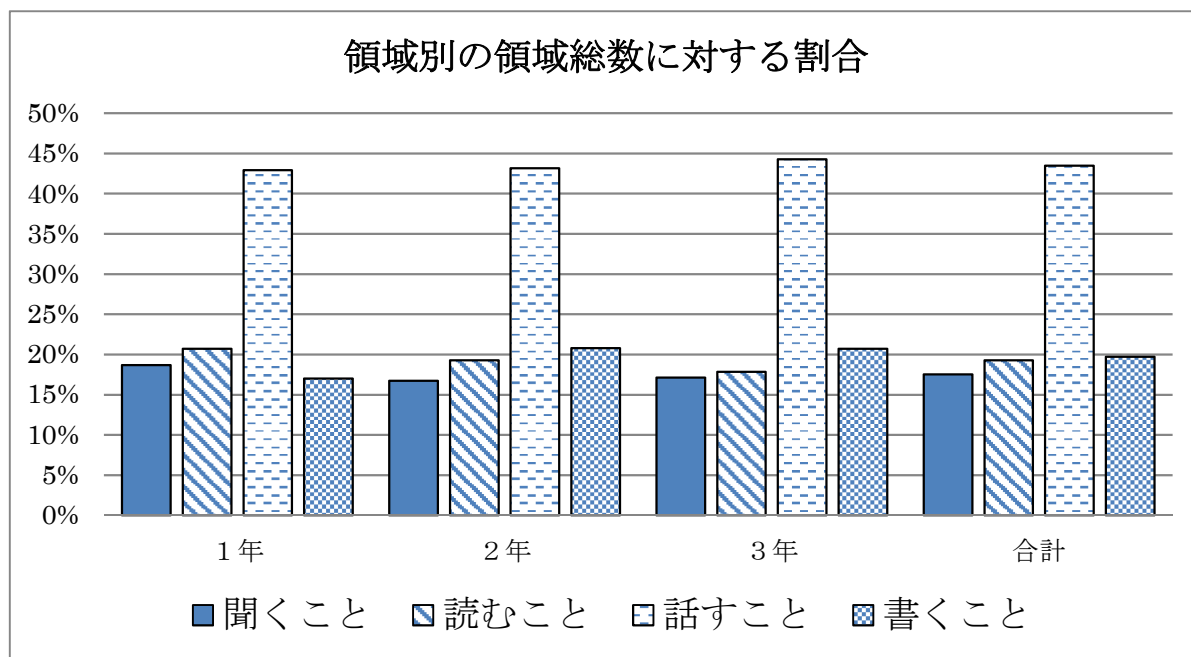
- 巻末には、小学校で学習した語と、教科書内で学習した語が「Word List」として掲載されている。
- 各単元で聞くこと、読むこと、話すこと [やり取り]、話すこと [発表]、書くことに関わる活動の「記号」が示されている。
- 巻頭に「本書の構成」が示されており、巻末に「CAN-DO List」が掲載されている。
- 単元の「Part」に音読した回数をチェックする欄が設定されている。
- 「Let's Read」では、読み方のポイントが「Tips for Reading」として掲載されている。
- 世界各国の文化や価値観の違い等について学ぶ「World Tour」コーナーが掲載されている。
- 会話の練習をする「Let's Talk」が「帯教材」として、巻末に収録されている。
- 自主的な学習ができるように、音声等につながるQRコードが掲載されている。
- 書体や色使いやレイアウト等に、ユニバーサルデザインの視点が入り入れられている。
- 学習の流れが一定になるように、活動や学習要素が紙面上の定位置に設定されている。

1 概括的な調査研究

(1) 領域別の構成

	領域別の領域総数に対する割合				領域 総数	頁数	資料・付録
	聞くこと	読むこと	話すこと	書くこと			内容
1年 (A B判)	19%	21%	43% やり取り 30% 発表 13%	17%	198	29	Word list / Word Box / 変化形のつくり方 / 筆記体 / Can-Do リスト / 1年 基本文のまとめ他
2年 (A B判)	17%	19%	43% やり取り 20% 発表 23%	21%	197	34	Word list / Word Box / 不規則動詞変化表 / 数の読み方 / Can-Do リスト / 2年 基本文のまとめ他
3年 (A B判)	17%	18%	44% やり取り 21% 発表 23%	21%	140	39	Word list / Word Box / 不規則動詞変化表 / 符号の使い方 / Can-Do リスト / 3年 基本文のまとめ他
合計	18%	19%	43% やり取り 23% 発表 20%	20%	535	102	

※領域総数とは、教科書内に示された領域別「記号」(アイコン)数の総数である。



(2) 言語の使用場面、働き等に関するページ数の構成

	「言語の使用場面」 の種類の数	「言語の働き」 の種類の数	伝統文化や自然科学 を題材に取り上げ ているページ数	文字や音声、文法 について独立して 取り上げている ページ数
1年	7	17	8	12
2年	9	16	11	6
3年	8	18	11	6
全 体	24	51	30	24

2 基礎的・基本的な知識及び技能の習得に関すること

- 全ての学年において、新出語句が「Words」として示されている。
- 全ての学年において、単元の「Part」の「Target」が新出文法として扱われており、「Practice」と「Use」が設定されている。
- 全ての学年において、「Use」「Express Yourself」で表現の参考となる「Tool Box」が囲みで掲載されている。
- 全ての学年において、文法項目のまとめである「Targetのまとめ」で、学んだ知識及び技能を用いて話す活動「Let's Read」が設定されている。

3 思考力、判断力、表現力等の育成に関すること

- 第2、3学年において、「とびら」に学習内容と関連のある写真と質問が掲載されている。
- 全ての学年において、各単元の「Read & Think」では、「Understanding」に3段階の問いが設定されている。
- 第2、3学年において、各単元で習得した言語材料を用いて、単元のテーマに基づいて表現活動をする「Express Yourself」が設定されている。
- 全ての学年において、これまで複数の単元を通して学んできたことを統合する「Project」が設定されている。
- 第2、3学年において、各単元の「とびら」には、「テーマ」と「目標」が示されており、単元最後の言語活動が関連して設定されている。
- 全ての学年において、コミュニケーションの目的や場面、状況に応じて、各技能（領域）を活用する「Let's～」が設定されている。

4 生徒の実態や、教科等横断的な内容に関すること

- 第2、3学年において、各単元で学んだ内容と関連した「More Information」が取り上げられている。
- 第2学年において防災教育、第3学年において修学旅行、福祉教育等、学校における教育活動と関連のある単元が設定されている。

5 全体的な表記・表現の工夫に関すること

- 教科書内で学習した語が「Word List」として掲載されている。
- 各単元で聞くこと、読むこと、話すこと [やり取り]、話すこと [発表]、書くことに関わる活動の「記号」が示されている。
- 巻頭の「この教科書の使い方」で構成が示されており、巻末に「Can-Do リスト」が掲載されている。
- 「Let's Read」では、発音のポイントが「発音コーナー」に記載されている。
- 単元の「Part」ごとに、「音読のポイント」が記載されている。
- 各単元の題材や学習事項に関するミニコラム「Notes」が掲載されている。
- 使用する単元ごと整理された「Word Box」が掲載されている。
- 自主的な学習ができるように、音声等につながるQRコードが掲載されている。
- 書体や色使いやレイアウト等に、ユニバーサルデザインの視点が入力されている。
- 学習の流れが一定になるように、活動や学習要素が紙面上の定位置に設定されている。

